

未来の起業家 発想光る



京田辺市の高級茶を使った飲料を産場者（PR）する同志社女子大の学生ら（京都市左京区・京大）

大学生や小中学生が地域の名産品を使って企画開発した商品を紹介する「ユース・エンタプライズ トレードフェア」が27日、京都市左京区の京大で開かれた。地域活性化に向けた事業プランを練り上げた若き起業家たちが、アイデア商品を売り込んだ。

左京で「開発商品」見本市

同志社女子大

玉露スムージー

西別院小

天日干しのコメ

NPO法人や京都市、経済団体などをつくる実行委員会が、起業教育に取り組む大学や学校の実践見本市として毎年催している。今年には府内をはじめ群馬県や広島県などから30団体が出展した。

同志社女子大のグループは、京田辺市産の高級茶・玉露の消費拡大に向け、若者に人気のスムージーと掛け合わせた飲料を考案。愛知学院大（名古屋）のチームは廃棄する野菜で染めた生地で雨がっぱのポンチヨを仕上げ、エコビジネスとしてPRした。

初参加の西別院小（亀岡市）のグループは、手間暇をかけた天日干しのコメや地場野菜を売り込み、審査で最優秀賞の府知事賞に輝いた。校内で立ち上げた架空の企業で「社長」を務める6年糸井万琴さん（12）は「地域のおいしい食材を多くの消費者に伝えたい」と話していた。（柿木拓洋）